

(シエクスピア)などがある。
(現住) 兵庫縣東蘆屋井尻

瀧井孝作

折紫の號がある。明治二十七年四月、岐阜縣高山町に生れる。大正三年上京、俳句雜誌「海紅」の編輯に従事すること五年、時事新報記者一年、「改造」記者一年の經歷がある。短篇集「妹の問題」「良人の貞操」「長篇「無限抱擁」の著のほか小説、俳句の作がある。
(現住) 奈良市上高畑町

田口憲一

明治三十七年五月十一日、埼玉縣にて生れる。東京の二三の大學に學んだが何れも中途退學。「マルクス主義と藝術運動」その他の譯著等がある。「戦旗同人」。
(現住) 埼玉縣越ヶ谷町

武野藤介

本名は眞壽太。明治三十二年四月、岡山市萬成町にて生れる。縣立岡山第一中學校卒業。早大露文科中途退學。中央新聞文藝部記者をしたことがある。「現代作家表現の研究」「長篇「男犯」のほかに小説、評論、隨筆、及び多くのコントがある。
(現住) 埼玉縣越ヶ谷町

(現住) 東京市外杉並町阿佐ヶ谷天沼四六九

武林無想庵

本名は盛一。明治十三年二月、北海道札幌にて生れる。東京帝大文科出身、佛蘭西から歸朝後、専ら創作に従事したが、再び佛蘭西に遊び、引續き滞在中である。「結婚譚」「文明病患者」の著作、「サフオ」「サン」等の翻譯のほか、小説、隨筆がある。
(現住) 巴里

田島淳

明治三十一年一月十九日、横濱市野毛町にて生れる。早大英文科卒業。能祇「酒みづき」歳末挿話「堤「夕立」等の作がある。
(現住) 横濱市小港町九八

多田不二

明治二十六年十二月、茨城縣結城町に生れる。栃木縣立真岡中學校卒業、金澤第四高等學校を経て、東京帝大哲學科(心理學專攻)を卒業。大正九年時事新報記者となり、同十三年退社後、雜誌「愛の泉」編輯に當つた。詩誌「帆船」を經營主

幸したことがある。詩集「惱める森林」「夜の一部」のほかに詩作、評論などがある。
(現住) 東京府荏原郡東調布町下沼部七〇五

田中貢太郎

明治十三年三月、高知縣長岡郡三里村にて生れる。郷里の高等小學校卒業後はすべて獨學。船大工、小學校教員、新聞記者等をしたことがある。說話集「墨影集」「燈臺鬼」「戀愛鬼話」「春宵詩話」「五月雨夜語」「月の夜語」「切支丹屋敷」「怪談「奇語哀語」等のほかに、多くの大衆文藝ものなどがあり、「怪談全集」(上下二巻)はその近業である。
(現住) 東京市外碑倉町碑文谷一五四六

田中純

明治二十三年一月、廣島市にて生れる。廣島中學校、神戸關西學院神學部卒業、早大英文科卒業。短篇集「闇に哭く」「妻」等のほかに、多くの小説、評論、隨筆がある。曾て「人間」同人であつた。
(現住) 神奈川県鶴沼海岸中屋一八號

田中總一郎

僧の奇蹟「源義朝」等のほかに、多くの小説、紀行、隨筆などの著作がある。
(現住) 東京市外代々木山谷一三二

[子]

中條百合子

明治三十二年二月十三日、東京市小石川區原町にて生れる。本郷誠之小學校、お茶の水高等女學校卒業。米國に遊んだ事がある。小説の作多く著作に「伸子」「一つの芽生」その他がある。目下露西亞に遊學中。
(留守宅) 東京市外駒澤町新町信託地内

近松秋江

本名は徳田浩司。明治九年五月四日、岡山縣和氣郡藤野村にて生れる。明治二十五年、岡山縣立中學校に入學したが、翌二十六年十二月退學。慶應義塾、國民英學會、二松學會等にて學んだ後、明治三十一年九月、四度目の上京をなし東京專門學校(早大の前身)に入學、英文科を卒業した。博文館の「中學世界」編輯、早稲田文學編輯をしたことがある。明治三十九年頃には「讀賣新聞」日曜附録に「文

谷崎潤一郎

明治三十二年十一月に生れる。第三高等學校を卒業し、東京帝大文學部美學科に學んだ。戯曲集「午前八時」のほかに戯曲、翻譯などがある。
(現住) 東京市外中野町新井五九八

谷崎潤一郎

明治十九年七月二十四日、東京日本橋區蠣殼町にて生れる。府立第一中學校卒業、第一高等學校を経て、明治四十一年東京帝大國文科に入つたが、翌四十二年九月退學。同年十一月、「新潮」に「刺青」を發表したが、これが處女作であると云はれてゐる。尙ほ大正九年十年頃には、大正活映株式會社の脚本部顧問として、映畫劇「アマチュア俱樂部」の處女作を初め「葛飾砂子」(泉鏡花原作)「離祭の夜」「蛇性の淫」等の脚色撮影がある。また大正七年と十五年の兩度、支那に遊んだことがある。「刺青」以後今日までに發表した小説戯曲數頗る多く、「刺青」「惡魔」「戀を知る頃」「お艶殺し」「お才と巳之助」「鮫人」「愛すればこそ」「神と人との間」「痴人の愛」「人魚の嘆き」「近代情痴集」「潤一郎全集」その他の著作がある。
(現住) 兵庫縣武庫郡本山村岡本好文園

谷崎精二

明治二十三年十二月、東京日本橋區蠣殼町にて生れる。谷崎潤一郎氏弟。早大英文科卒業。長短篇の小説の作多く、「離合」「結婚期」「戀愛積算者」「生と死の愛」「若き夜と空」「地に頬つけて」「靜かな世界」「水のほとり」等の著及び翻譯などがある。早大講師。
(現住) 東京市牛込區喜久井町二一

田村西男

本名は喜三郎。明治十三年二月、東京市下谷區墨門町に生れる。東京法學院(中央大學の前身)を卒業。多くの小説、戯曲及び劇評などがある。
(現住) 東京市外池上石川上ノ臺一八七

田山花袋

本名は録彌。明治四年十二月上州館林町にて生れる。館林小學校を卒へ、十六歳の時に上京、語學を二三の私學で學んだ。永く博文館編輯局にあつて「文章世界」を編輯してゐたことがある。「妻」「生」「藤」「蒲團」「田舎教師」「髪」「時は過ぎ行く」「二兵卒の銃殺」「殘雪」「合歡の花」或る

境無駄話」を執筆し反響を呼んだ。同四十三年四月「早稲田文學」に「別れた妻に送る手紙」を發表したが、これが處女作であると云はれてゐる。以後、小説の作多く、その代表的なものとしては、「疑惑」「舞鶴心中」「黒髪」「狂亂」「霜凍る背」「子の愛の爲に」「第二の出生」などがあり、戯曲「伊豆の頼朝」「北條泰時」などもある。尚ほトルストイ原著「生ひ立の記」の翻譯、多くの隨筆、評論がある。

遅塚 水

（現住）東京市外東中野上ノ原九五四
本名は金太郎。明治元年十二月、靜岡縣沼津にて生れる。別に學歴はない。多くの小説、紀行文集があり。夙より都新聞記者となり、今日に及んでゐる。

茅野 蕭々

（現住）東京市外淀橋町角管一四八
明治十六年三月、長野縣上諏訪町にて生れる。東京帝大獨文科卒業。第三高等學校教授の後、慶應義塾大學教授となり今日に及んでゐる。歐洲に留學し、先般歸朝した。「ダマックス」(ストロンドベリ)のほか、多くの翻譯並に紹介があり、また小説、詩歌の作がある。

茅野 雅子

（現住）東京市芝區三田綱町一
明治二十三年、大阪市にて生れる。日本女子大學校卒業、明治四十年茅野蕭々氏に嫁した。歌集「金沙灘」その他多くの作歌隨筆などがある。先頃、夫君歸朝の前、歐洲に遊んだ。

千葉 龜雄

（現住）東京市外大井町庚申塚四八四二
曾て江東と號した。明治十一年九月二十四日、山形縣酒田町に生れる。仙臺第一中學、早大歴史科を何れも中途退學。國民英學會卒業。「文庫」「新聲」「日本及日本人」等の雜誌記者生活の後、新聞記者となり、日本新聞、國民新聞、時事新報、讀賣新聞、大阪毎日新聞を経て、現に東京日日新聞學藝部長である。多くの外國文學の紹介、評論などがある。

塚原 健二郎

（現住）東京市外大井町庚申塚四八四二
明治二十八年二月十六日、長野縣埴科郡

津田 光造

（現住）東京市外野方町下沼袋一五八九
東條村にて生れる。商業學校中途退學、正則英語學校に學んだ。小説「ある迷宮の舞踏者」の著のほか、小説の作がある。

津田 潤

（現住）東京市外大岡山三九
明治二十三年十二月、神奈川県足柄上郡南足柄村にて生れる。神田大成中學校卒業、神奈川縣立師範學校第二部卒業、早大英文科に學んだ。著述、教師、雜誌編輯、僧侶などをした。「青年教師の懷疑」「大地の呻吟」等の著作がある。

土井 晚翠

（現住）東京市外高田町狐塚八六六
明治十八年十月四日、東京市淺草區藏前片町にて生れる。國民英學會の出身、小學教師、女學校教師をしたことがある。「自我經」(スチルナー)「天才論」(ロンブローゾ)「阿片溺愛者の告白」(ヂクイニシイ)「青年の告白」(ジヨウヂムウア)等の翻譯、隨筆感想集「浮浪漫語」「すべら」等のほか、多くの隨筆などがある。目下、讀賣新聞特置員として巴里に滞在

津村 京村

（現住）東京市外代々木初臺五三九
本名は京太郎。明治二十六年、兵庫縣明石にて生れる。小學校を卒業の後、すべて獨學。長篇小説「結婚地獄」戯曲集「死の接吻」その他の著作がある。雜誌「人と藝術」を主宰したことがある。

戸川 貞雄

（現住）神奈川県中郡平塚新宿一五〇四
明治二十七年十二月二十五日、東京にて生れる。早大英文科卒業、雜誌記者をしてゐたことがある。「早稲田文學」に發表した「蝨く」を出世作とし、以後、小説、評論等が多く、短篇集「蝨く」「春畫のほかに長篇「入柱」などの作がある。

戸川 秋骨

（現住）東京市外代々木初臺五三九
本名は明三。明治三年十二月、熊本縣玉名郡岩崎村にて生れる。明治學院、東京帝大英文科出身。「エマーソン論文集」「哀史」「デカメロン」その他の翻譯のほかに、

土田 杏村

（現住）仙臺市本荒町二一
本名は茂。明治二十四年一月、新潟縣佐渡郡新穂村にて生れる。東京高等師範學校博物學部卒業、京都帝大文學部哲學科卒業。同大學院にあつて哲學、生物學を専攻した。「文化主義原論」「唯の如くに語る」「華嚴哲學小論」「マルクス思想と現代文化」「象徴の哲學」「文明思想と新哲學」「生物哲學」「文學論」「日本支那現代思想の研究」「國文學の哲學的研究」「戀愛の諸問題」「現代哲學概論」等多くの著作がある。

坪内 士行

（現住）京都市新町頭
明治二十年八月十六日、名古屋市中にて生れる。明治四十二年早大英文科卒業、歐米に約七年間遊學し、歸朝後、早大に教鞭を執つた。後、俳優となり、寶塚音楽歌劇學校の顧問となつてゐるが、先頃辭任

坪内 逍遙

（現住）大阪府豊能郡箕面村櫻ヶ丘
本名は雄藏。安政六年五月、愛知縣加茂郡太田村尾張代官所にて生れる。東京帝大政治科卒業。永らく早大教授をしてゐた。また文藝協會を興して新劇の勃興に力を盡した。多くの著作があり、「小説神髓」「當世書生氣質」「桐一葉」「牧の方」「香手島孤城落月」「名残の星月夜」「義時の最後」「法難」「新樂劇」「新曲浦島」「新曲「かぐや姫」」「我ベエ」「エントラ」「英文學史」「逍遙選集」などはその主なるものであり、別にシエクスピア全集の翻譯がある。文學博士。

坪田 讓治

（現住）東京市牛込區余丁町一一
明治二十三年、岡山縣御津郡にて生れる。大正四年、早大英文科卒業。短篇集「正太の馬」のほかに小説、コント、童話等の作がある。

隨筆集「文鳥」などがある。慶應義塾大學教授。

(現住) 東京市外井荻村下荻窪三七一

徳田秋聲

本名は末雄。明治四年十二月、金澤市横山町にて生れる。第四高等學校を中途退學して上京、故尾崎紅葉門下となつた。小説の作願も多く、主なる著作として、「足跡」「微」「爛れ」「あらくれ」「奔流」「秘めたる戀」「何處まで」「斷崖」等があり、「元の枝へ」(大正十五年九月改造所載)の一篇は近時文壇の視聽を蒐めた小説である。

(現住) 東京本郷森川町一南堺裏二二〇

徳富蘇峰

本名は猪一郎。文久三年正月、熊本にて生れる。同志社に學んだ。「世界の變局」「杜市と彌耳敦」「大正の青年と帝國の前途」等のほかに評論、史傳などの著作頗る多く、「近代日本國民史」によつて大正十二年學士院恩賜賞を受けた。貴族院議員、國民新聞社長。

(現住) 東京市外大森山王

土岐善麿

がある。舊「黒煙」舊「祖國」同人であつた。長篇「空に指して語る」のほかに短篇隨筆などがある。

(現住) 東京市外長崎町地藏堂九一七

直木三十五

本名は植村宗一。明治二十四年大阪にて生れる。早大出身。曾て「人間」「苦樂」などの編輯に當つたことがある。多くの隨筆のほかに、「仇討十種」を初め大衆文藝の作がある。

(現住) 東京市麹町區下六番町一〇

(電話九段二二一九)

永井荷風

本名は壯吉。明治十二年十二月三日、東京市小石川區金富町に生れる。東京英語學校、高等師範附屬尋常中學校を経て、外國語學校支那語科に學んだが、籍を置いたと云ふに過ぎない。明治三十六年渡米同四十二年歸朝までの間、米、佛各地に遊び、公使館員、銀行員をしたことがある。同四十三年、慶應義塾文科の教授となり、かたはら「三田文學」のために力を注いだ。大正五年、同教授を退き、同時に「三田文學」の編輯も辭した。明治三十二年一月「よしあし草」に處女作「おぼ

もと哀果の號を用ひた。明治十八年六月八日、東京市淺草區松葉町に生れる。早大卒業後、讀賣新聞社に入りし後、東京朝日新聞記者となり今日に及んでゐる。目下は同新聞社調査部長。短歌の作も多く、また夙より日本語ローマ字普及運動にも參加してゐる。「土岐哀果集」「空を仰ぐ」「鶯の卵」「朝の散歩」「作者別萬葉全集」「作者別萬葉以後」「春歸る」等のほかローマ字宣傳文書十餘種がある。先頃歐洲を「巡して歸つた」。

(現住) 東京市外下目黒八〇四

鴫田英太郎

明治三十二年一月十九日、宮城縣石巻港にて生れる。縣立仙臺第一中學校卒業、早大商科、慶應義塾大學文科中途退學。長篇戯曲「階級」の著のほかに戯曲及び小説の作がある。「劇と評論」同人。

(現住) 東京市外杉並町阿佐ヶ谷六八七

富田碎花

本名は戒治郎。明治二十三年十一月、盛岡市にて生れる。日本大學出身。詩歌の作も多く、歌集「貧しき愛」「詩集「末日頌」「地の子」「富田碎花集」のほかに「民主主義の方」「カーペンター」「草の葉」(ホキ

ツトマン)の翻譯などがある。

(現住) 兵庫縣武庫郡蘆屋茶屋蘆屋

豊島與志雄

明治二十三年十一月二十七日、福岡縣朝倉郡禮田村にて生れる。東京帝大佛文科卒業。小説の作多く「反抗」「人間繁榮」「狐火」「生あらば」「恩人」等の著のほかに「レ・ミゼラブル」「ユーゴー」「ジャン・クリストフ」「ロマン・ローラン」等の翻譯がある。東京帝大文學部講師。

(現住) 東京市本郷區千駄木町五七

(電話小石川二六〇五)

[ナ]

内藤銀策

明治二十二年八月二十四日、長岡市にて生れる。歌集「旅愁」の著のほかに、多く詩歌の作がある。「抒情詩」社主宰。

(現住) 東京市小石川區御殿町三二

内藤辰雄

本名は惠吉。明治二十六年二月十一日、岡山縣淺口郡河内村にて生れる。縣立商業學校中途退學。永き自由労働者等の體驗

會教育課長。

(現住) 東京市外大崎町上大崎八四

中里介山

明治十四年、東京にて生れる。大衆文藝の作願も多く、「大菩薩峠」は最も世に著はれ、ほかに「黒谷夜」「義朝の子」等の著がある。

(現住) 東京府下高尾妙音谷

中島孤島

本名は茂一。明治十四年六月、長野縣北佐久郡三井村にて生れる。明治三十二年東京專門學校(早大の前身)文學科卒業。「新民族勃興史」「暗黒時代史」「鎌倉時代史列傳」「グリムお伽噺」「續グリムお伽噺」「千一夜物語」「ギリシヤ神話」等の著作がある。

(現住) 東京市小石川區高田老松町二八

中田信子

明治三十五年十二月、山形市にて生れる。詩集「處女の掠奪者」のほかに多くの詩作がある。

(現住) 東京市外大森新井宿血沼五二二

長田秀雄

明治十八年五月、東京市神田區神保町にて生れる。中學卒業後、明治大學、關西大學等に學んだ。永く劇場「市村座」の顧問、重役をしてゐた。戯曲集「歡樂の鬼」「放火」「琴平丸」「大佛開眼」「愛情篇」「飢渴」「牡丹燈籠」小説集「午前二時」「聲」その他がある。

(現住) 東京市牛込區北山伏町三四
(電話牛込六五一〇)

長田幹彦

明治二十年二月一日、東京市麹町區九段坂上にて生れる。東京高等師範附屬中學校卒業、早大英文科中途退學。中學を卒へて後間もなく與謝野寛氏晶子氏の新詩社に入り明星に二三の小説を発表、後、「スバル」派に屬してゐた。明治四十四年永い間の放浪生活を了へて東京に歸り「スバル」に「濠」を発表して文壇一部の好評を博し、次で翌四十五年「中央公論」に「零落」を発表したが、これが出世作とも云ふべきものであつた。前記二作のほか「霧」があり、今日までに八十餘卷の著がある。最近には「現代長篇小説全集」の「長田幹彦篇」として「永遠の謎」「戀ごころ」を上梓した。ほかに隨筆などもある。

(現住) 東京市牛込區南山伏町一一

(電話牛込二〇三九)

中塚一碧樓

本名は直三。明治二十年九月、岡山縣淺口郡玉島町にて生れる。俳句の作頗る多く「海紅」を主宰してゐる。

(現住) 岡山縣淺口郡玉島町

中戸川吉二

明治二十九年五月、北海道釧路にて生れる。東京開成中學、逗子開成中學、京北中學校を轉々した後、明治大學に入學したが中途退學。曾て「新小説」編輯、一隨筆「經營に當つたこと」がある。長篇小説「反射する心」「北村十吉」短篇集「イボダの蟲」「縁なき衆生」「友情」その他がある。

(現住) 東京市外巢鴨宮下一八七九

中西伊之助

明治二十六年二月七日、京都宇治にて生れる。學歴と云ふほどのものはないといふ。時事新報記者をしてゐたことがあり、後、労働運動に加つた。長篇小説「精土に芽ぐむもの」「汝等の背後より」「老農喜兵衛の死」「一人生記録」短篇集「死刑囚」と其裁判長等の著作がある。

(現住) 東京市外淀橋町柏木六五六

中西悟堂

明治二十八年十一月十六日、金澤市長町にて生れる。東京京橋文海小學校、天台宗中學、曹洞宗中學卒業後、二三の宗教大學に學んだ。島根縣能義郡長樂寺、松江市普門院の各住職をし、松江市の松陽新報記者となり、後、詩作生活に入つた。歌集「唱名」「詩集」「東京市」「花順禮」「武蔵野」小曲集「かはたれの花」その他の著がある。

(現住) 東京市外高田雜司ヶ谷七一六

中原綾子

明治三十一年二月十六日、長崎市にて生れる。歌集「眞珠貝」のほかに多くの作歌がある。

(現住) 東京市外下渡谷七一七

永見徳太郎

明治二十三年八月五日、長崎市銅坐町にて生れる。大阪商業學校に學んだ。戯曲「和冠」のほかに長崎に關する文獻二三の著がある。

(現住) 東京市外高井戸町中高井戸三八

中村吉藏

正夫氏等と共に雑誌「露西亞文學」を刊行した。鐵道官吏、「中央文學」編輯、新聞記者、露西亞貿易商館番頭、オムスク政府通報局囑託等をした。文學上の仕事は主として露西亞文學の翻譯であり、「罪と罰」「アンナカレニナ」「小惡魔」「サアニ」「現代のヒーロー」その他がある。日本電報通信社員。

(現住) 東京市外駒澤新町四三一

中村武羅夫

明治十九年十月、北海道空知郡岩見澤町にて生れる。約二十年前上京。「新潮」記者となり今日に及んでゐる。長篇小説の作にして刊行されたもの二十種ほどがあり、主なるものとしては「惡の門」「歌人」「瀾潮」「群盲」「綠の朝」「女人群像」「處女」「女王」「夜の潮」等、ほかに短篇小説「隨筆」なども多く、「文壇隨筆」の著がある。「新潮」主幹。「不同調」同人。

(現住) 神奈川県鎌倉市(電話鎌倉二八)

長與善郎

明治二十一年八月六日、東京市麻布區宮村町にて生れる。學習院を経て、帝大英文科に入つたが中途退學。曾て「白樺」同人であつた。「盲目の川」「項羽と劉邦」

研究」主宰。

(現住) 東京市外西巢鴨宮仲一九六九

中村憲吉

明治二十二年一月、廣島縣雙三郡布野村にて生れる。東京帝大法科卒業。歌集「馬鈴薯の花」「林泉集」「しがらみ」等のほかに、多くの作歌がある。

(現住) 廣島縣雙三郡布野村

中村星湖

本名は將爲。明治十七年二月、山梨縣南都留郡河口村にて生れる。明治四十年、早大文科卒業。長篇小説「少年行」「影」「美貌」「かくれ沼」短篇集「半生」「星湖集」「漂泊」女のみ「矢はれた指環」等のほかに「月光」「死の如く強し」「ボブライイ夫人」「眞心」の翻譯などがある。昭和三年五月渡歐。目下佛蘭西に遊學中である。

(留守宅) 東京府下井荻村上井草一四七

中村白葉

本名は長三郎。明治二十三年十一月二十三日、名古屋市西洲寄町にて生れる。名古屋市立商業學校を経て、東京外國語學校露語科を卒業した。外語在學中に米川

春雨の號を用ひた事がある。明治十年五月十五日、石見國津和野町にて生れる。津和野小學校を卒業。山口町の山口學校鴻城義塾に學び、後、静岡にて公證人役場の筆生、大阪にて爲替貯金管理所書記補をした後、明治三十二年上京。廣津和郎氏の家庭教師として廣津柳浪氏方に寄寓、早大に通學し同三十六年同大學を卒業した。これより前、同三十四年に、「大阪毎日新聞」の懸賞に應募して小説「無花果」が當選した。同三十九年渡米。プリントン大學、コロンビヤ大學に學び、歐洲を経て同四十二年歸朝した。同四十四年、文藝協會のイブセン劇「人形の家」の演出を擔當したのを初めとして、大正二年より同八年藝術座解散に至るまで、同座のために努力した。歸朝後の作品は殆んど戯曲ばかりであり、その主なるものとしては「剃刀」「飯」「眞人間」「爆發」「淀屋辰五郎」「白隠和尚」「井伊大老の死」「大鹽平八郎」「錢屋五兵衛」「地震」「原始時代」「牛と鬮ぶ男」「無籍者」「道化役者」「獅子に喰はれた女」「星亨」「鬼が鳥から来た男」等であり、何れも上演された。ほかにイブセン劇の翻譯「三」「最近歐米劇壇」「イブセン評論」「吉藏戯曲集」等の著がある。早大講師。イブセン會「演劇

「頼朝」夜の戯曲「春田の小説」竹澤先生と云ふ人」その他の戯曲、小説がある。
(現住) 東京市外杉並町高圓寺五二五

中山 謙秀

明治三十三年、福島縣郡山市柳内にて生れる。郷里の中學校を卒へ、大正十二年早大英文科卒業。小説「野鼠」合戦「捕虜奪還」街の恩人」その他がある。目下は千葉縣成田中學校に教鞭を執つてゐる。
(現住) 千葉縣成田中學校氣付

中山 楠雄

本名は田中英一。明治二十三年十一月二日にて生れる。明治大學中途退學。演藝畫報「創刊當時から大正十年まで同記者をし、後二新演藝二萬朝報記者を経て、目下東京日日新聞演藝記者を勤めてゐる。戯曲「愛人」のほかに演劇についての隨筆がある。
(現住) 東京市外寺島町一三四五

並木 秋人

本名は三島一。明治二十六年六月二十七日、福島縣安達郡石井村にて生れる。農夫、會社員、新聞記者などをしたことが

ある。歌集「穂明」「集葉の卵」等の著作がある。短歌雜誌「常春」主宰。
(現住) 東京市外澁橋町角管二八八

南部 修太郎

明治二十五年十月十二日、仙臺市にて生れる。東京芝中學校卒業。大正六年慶應義塾大學文科卒業。「三田文學」編輯に従つてゐることがある。短篇小説集「修道院の秋」「湖水の上」「若き入獄者の手記」「鳥籠」長篇小説「返らぬ春」隨筆集「過ぎゆく日」等の著のほかに、小説、評論、隨筆などがある。
(現住) 東京市麻布區新龍土町二二
(電話青山四五八一)

榎 崎 勤

明治三十四年十一月七日、山口縣萩にて生れる。京城中學校出身。新潮社社員。「新潮」編輯。數種の小説、戯曲の作がある。
(現住) 東京市赤坂區表町二ノ一〇

成瀬 無極

本名は清。明治十七年一月、東京にて生れる。第一高等學校を経て、東京帝大獨逸文科卒業。慶應大學豫科教授から京都

に赴任。第三高等學校教授兼京都帝大文學部助教授となり、大正十年海外に留學、同十二年末に歸朝した。戯曲小説集「極光」小品集「東山の麓より」「近代浪漫主義」「東山夜話」夢を作る人」等の著がある。
(現住) 京都市上京區岡崎法勝寺町七二

(二)

新居 格

明治二十一年三月九日、徳島縣撫養町にて生れる。第七高等學校を経て、大正四年東京帝大法律科(政治科)卒業。讀賣新聞、大阪毎日新聞、東京朝日新聞記者をしたことがある。もと「明星」解放「文藝批評」の同人。多くの評論、隨筆、及び小説などがあり、著作に小説「月夜の喫煙」隨筆「季節の登場者」及び「近代心の解剖」がある。
(現住) 東京市外杉並町高圓寺八一

西川 勉

明治二十七年六月三十日、愛媛縣宇摩郡金田村にて生れる。早大英文科卒業。雜誌記者、新聞記者をしたことがある。「純

西宮 藤朝

明治二十四年十二月七日、秋田縣仙北郡角館町にて生れる。早大英文科卒業。新詩歌論講話「現代哲學思潮大系」等の著のほかに評論、翻譯などがある。早大講師。
(現住) 東京市外田端五五

西村 陽吉

本名は辰五郎。明治二十五年四月、東京市本所區東兩國に生れる。小學校卒業後別に學歴と云ふものはない。早くより書肆の店員となり、目下は東雲堂書店經營。歌集「都市居住者」現代口語歌選「街路樹」評論集「新社會への藝術」等の著作のほかに、多くの短歌がある。
(現住) 神奈川縣鶴見町一四二

新關 良三

山形市にて生れる。東京帝大獨逸文科卒業。「ハーゲマンの舞臺藝術」演劇評論」のほかに著作二三、翻譯、紹介などがある。

(又)

額田 六福

明治二十三年十月、岡山縣勝田町にて生れる。大正九年早大文科卒業。戯曲の作多く、戯曲集「眞如」「冬木心中」「天一坊」等がある。
(現住) 東京市外杉並町阿佐ヶ谷松山二八九

能島 武文

明治三十一年五月十五日、大阪市北區眞砂町にて生れる。堺中學校を経て、早大英文科卒業。「劇と評論」演劇新潮」の編輯をし、また「近代劇全集」の刊行にも參與した。戯曲「裸になる」幕「東京小景」「波紋」等の作のほかに「作劇の理論と實際」の著がある。
(現住) 東京市外幡ヶ谷八五五

野上 豊一郎

曾て白川と號した。明治十六年、大分縣臼杵町にて生れる。第一高等學校を経て、東京帝大英文科卒業。「能面の女」「集鴨の女」等の著のほかに、小説、評論、翻譯などがある。法政大學教授。
(現住) 東京市外日暮里渡邊町一〇四〇

野上 彌生子

明治十九年、大分縣臼杵町にて生れる。野上豊一郎氏夫人。「新しき生命」「小説六つ」「海神丸」等の著作のほかに、小説及び翻譯「傳説の時代」がある。
(現住) 東京市外日暮里渡邊町一〇四〇

野口 雨情

本名は英吉。明治十五年十二月二十九日、茨城縣多賀郡磯原町にて生れる。東京專門學校出身。「別後」「赤い月夜」「砂上の夢」童話十講」等のほかに、多くの童話、民謡の作がある。
(現住) 東京市外吉祥寺七七八

野口 米次郎

英米等ではヨネ・ノグチとして知られてゐる。明治八年十二月、愛知縣津島町に

て生れる。慶應義塾に學んだ後、渡米して米國詩人に學び、在外多年、歸朝後慶應義塾大學教授となり今日に及んでゐる。英文著書十四種あり、邦文著書として「二重國籍者の詩」(林檎)「落つ」(沈黙の血潮)「野口米次郎詩論」及び「野口米次郎ブックレット」私は現代風景を切る」等その主なるものである。

野島辰次

明治二十五年六月十九日、東京市本郷區元町に生れる。本郷小學校、京華中學校卒業。慶應大學中途退學。大正九年より同十五年まで時事新報記者をしたことがある。長篇小説「記念碑」のほかに、短篇評論、隨筆及び童話などがある。「不同調」同人。

(現住) 東京市外中目黒七五一

昇曙夢

本名は直隆。明治十一年七月、鹿兒島縣大島郡名實村にて生れる。郷里の小學校を卒へ、二十八年に上京。正教傳道學校に學び、翌年正教神學校に入り、三十六年卒業。直ちに同校講師となり、大正元年陸軍中央幼年學校講師、同四年早大講

灰野庄平

明治二十年四月、新潟縣刈羽郡高井村にて生れる。東京帝大文科卒業、同大學院にあつた。戯曲「春の始皇」魯氏の歌などのほかに評論、隨筆がある。現に日本大學講師として日本演劇史を講じてゐる。

(現住) 東京市小石川區大塚坂下町七九

萩原朔太郎

明治二十一年十一月一日、前橋市北曲輪町にて生れる。第六高等學校中途退學。詩集「月に吠える」「青猫」「蝶を夢む」「純情小曲集」「萩原朔太郎詩集」「詩論と感想」「新しき欲情」等の著作のほかに、多くの詩作、評論などがある。

(現住) 東京市外馬込町平張一三二〇

萩原羅月

本名は芳之助。明治十七年五月、横濱市にて生れる。東京帝大國文科出身。詩集「雪嶽」併著七部集通釋「連句作法」等の著がある。

(現住) 東京市小石川區竹早町一一五

橋田東聲

師、同五年陸軍教授に任命され陸軍士官學校付に補せられた。同十一年に日本大學講師となり今日に及んでゐる。昭和三年秋トルストイ百年祭に際して露國に招待されたのを併せて彼地に遊ぶこと前後四回である。多くの翻譯及び紹介があり、その主なるものは次の如くである。「露國近代文藝思想史」「露國現代の思潮及文學」「露國革命と社會運動」「トルストイ十二講」「ロシア藝術の勝利」「露國文學全集」(五卷)「新ロシア・パンフレット」翻譯には「現代露國文學傑作集」(六卷)「決闘」(虐げられし人々)「どん底」「トルストイ物語」「トルストイとドストエフスキ」「空氣饅頭」「革命後のロシア文學」復活等。

野村愛正

明治二十四年八月、鳥取縣若見郡大茅村にて生れる。長篇明けゆく空「短篇」「土の靈」のほかに小説の作がある。

(現住) 東京市外吉祥寺五六五

(八)

長谷川伸

かつて著作の號を用ひたことがある。本名は伸二郎。明治十七年三月、横濱市眞金町にて生れる。小學校半途の後、専ら獨學。大衆文藝の作頗る多く「よもすがら檢校」「どろんの道」等の著があり。

(現住) 東京市外大崎町桐ヶ谷八二九

長谷川天溪

本名は誠也。明治九年十二月、新潟縣刈羽郡高濱村にて生れる。明治三十年早大英文科卒業。英國に留學したことがある。永らく博文館にあり、先頭同館編輯局長を退いた。多くの評論及び隨筆などがある。

(現住) 東京市外上大崎七八九

長谷川如是閑

本名は萬次郎。明治八年十一月、東京深川にて生れる。明治三十一年東京法學院(中央大學前身)を卒業。日本新聞、日本及日本人、大阪朝日新聞の記者をしたことがある。「額の中の男」「倫敦その他多くの小説の著作があるが、近時は主として評論を發表し、「現代國家批判」「現代社會批判」「眞實は斯く伴る」「犬猫人間」など

長谷川浩三

にして岡山市中國民報社に入り、大阪時事を経て大阪朝日記者となり三十四歳の夏、同社を退いた。「土師清二集」(大衆文學全集の内)「血けむり伊吹嵐」「水野十郎左衛門」「傳奇紫雲傳」等の著作のほかに、「砂繪呪縛」を始め多くの大衆文藝の作がある。

(現住) 兵庫縣寶塚新温泉川下

長谷川時雨

本名は庚子。三上於菟吉氏夫人。明治十二年、東京日本橋にて生れる。坪内逍遙氏に師事した。曾て尾上菊五郎と共に狂言座を創設し、また舞臺研究會を起したことがある。戯曲集「櫻ふぶき」「情熱の女」のほかに「美人傳」(二部)などの著作がある。雑誌「女人藝術」主宰。

(現住) 東京市牛込區市ヶ谷左内町三一

橋爪健

明治三十一年二月二十日、松本市にて生れる。静岡沼津中學校、第一高等學校を経て、東京帝大法科及び文科に學んだ。「文藝公論」を主宰してゐた。詩集「合掌の春」「午前の愛撫」「われら凱旋の日」評論集「陣痛期の文藝」等のほかに小説、詩評論及び少女小説などがある。

(現住) 神奈川県藤澤町沼沼海岸

土師清二

本名は赤松靜太。明治二十六年九月、岡山縣邑久郡國府村にて生れる。十歳の秋父に死別し、十一歳より呉服店、荒物店、活字活版用具商等に雇はれ、後、十九歳にして上京、石川半山に師事、二十一歳

の著がある。雑誌「我等」主幹。
(現住) 東京市外東中野九三七

長谷部 孝

明治二十九年十月二十九日、三重縣鈴鹿郡庄野村にて生れる。大正七年早大英文科卒業。曾て「婦人畫報」の編輯をしたことがある。「應酬」「靴磨きと女車掌」「赴任の前夜」「お常の貞操」等の戯曲がある。「演劇研究」編輯、イブセン會同人。
(現住) 東京市小石川區西青柳町四

畑 耕一

明治二十三年五月十日、廣島市堀川町にて生れる。大阪高等商業學校を卒へ、第八高等學校工科を中途退學、更に第一高等學校を経て東京帝大英文科卒業。東京日日新聞學藝記者をしてゐたが、大正十三年退社して松竹キネマに入つた。戯曲「直助權兵衛」「姐」「武藏と巖流」「劫火」等。小説に「煥指」「幸福」その他がある。松竹キネマ文藝部長、日本大學講師、明治大學講師。
(現住) 東京市本郷區元町一ノ五、文化アパートメント内(電小石川二九三二)

秦 豐吉

明治二十五年一月十四日、東京日本橋にて生れる。第一高等學校を経て、東京帝大法科卒業。伯林に三菱商會社支店員として勤務してゐたことがあり、先頭歸朝した。「駁者」「ヘンシェル」「エルテルのほかに隨筆、研究などがある。
(現住) 東京府下大森山王二七八一

幡谷 正雄

明治三十年一月二十日、島根縣那賀郡井野村にて生れる。縣立濱田中學校卒業。早大英文科卒業。永い間英語教師をしてゐた。「バイロン詩集」「ワアツワアス詩集」「ブレイク詩集」その他の翻譯及び紹介などがある。
(現住) 東京市外巢鴨町宮仲三三二六

服部 秀

明治二十二年十一月二十三日、埼玉縣忍町にて生れる。早大文科を途中退學し、新聞記者、雜誌編輯等を経て松竹合名會社文藝部員となり、新聲劇舞臺監督、新潮座文藝顧問として主に關西に活躍する。
(現住) 大阪市住吉町天王寺町四四一

馬場 孤蝶

本名は勝彌。明治二年十一月九日、高知市にて生れる。明治二十四年明治學院卒業。中學校教師、日本銀行員をしたことがある。同三十九年慶應義塾大學部教授となり今日に及んでゐる。「やどり木」「泰西名著集」「モウパッサン傑作集」「戦争と平和」「イリアッド」等の翻譯のほかに「のもり草」「連翹」「近代文藝の解剖」「最近社會的文藝」等の著があり、別に小説、評論、隨筆その他がある。
(現住) 東京市小石川區水道端二ノ一八

濱田 廣介

本名は廣助。明治二十六年五月、山形縣東置賜郡屋代村にて生れる。米澤中學校卒業。大正七年早大英文科卒業。「ひろすけ童話讀本」「三巻」童話集、「小鳥と花と」「トルストイ童話集」「世界童話選集」等の譯者がある。
(現住) 東京市小石川區大塚坂下町七四

半田 良平

明治二十年九月十日、栃木縣上都賀郡北大飼村にて生れる。宇都宮中學校卒業。第二高等學校を経て、東京帝大英文科卒業。歌集「野づかき論集」「短歌新考」及び「芭蕉俳句新釋」等の著作がある。

(現住) 東京市外上落合二四二

林 信一

明治二十七年十二月五日、大阪市西區京町堀通にて生れる。歌集「栗の花」「詩集」「林信」詩集「憂鬱の都市」その他多くの詩歌がある。
(現住) 東京市牛込區早稲田南町一〇

林 房雄

本名は後藤壽夫。明治三十六年五月、大分市にて生れる。第五高等學校を経て、東京帝大法學部に學んだが、大正十五年一月、「日本學生社會科學聯合會」選舉事件に連座して退學。短篇集「牢獄の五月祭」「鎖」「翻譯」「經濟科學概論」「インタナショナルの歴史」等のほかに、小説、評論などがある。「戦旗」同人。
(現住) 東京市外杉並町高圓寺六五

林 和

明治二十年八月、千葉縣香取郡小見川町にて生れる。早大文科に學び、文藝協會第一期卒業。その後、守田勘彌と文藝座を設立し、その主事及び舞臺監督となつた。「公曉」「柳澤吉保」「江戸一代女」等の戯曲がある。

(現住) 東京市外和田堀町和田五八

葉山 嘉樹

明治二十七年三月、福岡縣豊野にて生れる。海員、醫院書生、鐵道雇員、坑夫、土工などの體驗を持つてゐる。治安警察法違反にて入獄したことが二度ある。「海に生くる人々」「淫賣婦」「渡瀬船」「労働者のみない船」「新選葉山嘉樹集」などの小説の著作がある。
(現住) 東京市外杉並町高圓寺六四九

原 阿佐緒

明治二十一年六月、宮城縣黒川郡宮床村にて生れる。歌集「涙痕」「白木蓮」「死をみつめて」等の著がある。
(現住) 東京市外杉並町阿佐ヶ谷成宗田端六七六戸村方

原 久一郎

曾て白光と號してゐた。明治二十三年四月十日、新潟縣北蒲原郡水原町にて生れる。縣立新發田中學校卒業。大正三年早大英文科卒業。東京外國語學校その他にて露語を學んだ。大正十年四月より同十四年十月まで、早大露文科及び早稲田高等學院の講師をした。「アンナ・カレーニ

ナ」「賭博者」「貧しき人々」「永遠の良人」「生活の盃」「ランダの死」「どん底」「大トルストイ傳」等多くの翻譯がある。
(現住) 東京市外長崎町五郎窪三八八五

久板 榮二郎

明治三十一年七月三日、宮城縣岩沼町にて生れる。工業學校中途退學、後、第二高等學校を経て、東京帝大文科卒業。「犧牲者」「戦闘は繼續する」「復興記念祭」「命令一下」等の戯曲の作がある。
(現住) 東京市外荒橋町角管八六全日本無産者藝術聯盟本部内

日高 只一

明治十三年六月、廣島にて生れる。早大英文科卒業。曾て英國に留學したことがある。「翻譯」「ナナ」のほかに「英米文藝印象記」の著及び研究、紹介などがある。早大教授。
(現住) 東京市外杉並町阿佐ヶ谷一

日夏 耿之介

本名は樋口國登。明治二十三年二月二十

二月、長野縣飯田町にて生れる。大正三年早大文科を卒業。雑誌「假面」「詩人」の同人だったことがある。「定本日夏歌之介全詩集」「ワイルド詩集」「英國神祕詩鈔」「近代神祕主義」その他の譯著がある。早大文學部助教。

平田 禿木

本名は喜一。明治七年二月、東京市日本橋區伊勢崎町にて生れる。舊共立學校、第一高等學校に學び、後渡歐、英國牛津大學にて英文學言語學を専攻した。歸朝後、永く東京高等師範學校、學習院等に教鞭を執つてゐたが、明治四十四年以後は、専ら英文學の紹介及び翻譯をしてゐる。「最近英文學研究」「我戀の人」「英國近代傑作集」「エマソン論文集」「青春」「彼等」「新生」等の譯著がある。

平塚らいてう

本名は明子。明治十九年二月、東京麹町にて生れる。お茶水高等女學校卒業、日本女子大學宗教科の卒業。雑誌「青鷲」を興して、わが國の婦人問題に一つのエポックをつくつた。後、新婦人協會を創立し

て實際運動を試みたことがある。小説と多くの評論があり、「圓窓より」「現代の婦人と生活」「現代の男女」「婦人と子供の權利」等の著のほかに翻譯「母性の復興」「エレンケイ」などがある。

平林たい子

明治三十八年十月、長野縣にて生れる。縣立諏訪高等女學校卒業。事務員、店員等をした経験を持つてゐる。短篇集「施療室にて」の外に小説及び評論等がある。

平林初之輔

明治二十五年十一月八日、京都府竹野郡深田村にて生れる。大正六年早大卒業。やまと新聞、國際通信記者をした後、大正十五年から昭和三年二月「太陽」休刊まで同誌主幹だった。「無産階級の文化」「近世社會思潮」「日本自由主義發達史」等の著のほかに翻譯「自然界に於ける人間の位置」「民約論」及び多くの評論がある。

平松幹夫

(現住) 東京小石川區水道端町一ノ一二
明治三十六年九月六日、東京下谷區西黒

門町にて生れる。大正十五年慶應義塾大學文學部卒業、次いで同大學院に學んだ。「汗の味」「感傷罪」「ドキュメント」「彼の小春日」その他短篇小説及び評論等がある。「三田文學」編輯擔當。

平山蘆江

本名は壯太郎。明治十五年十一月十五日、兵庫縣兵庫濱川にて生れる。長崎市立商業學校、東京府立第四中學校を何れも中途退學。滿洲營口に二年ほど流浪してゐたことあり、明治四十年歸京後、都新聞社に入り今日に至つてゐる。大衆文藝方面の著作多く、「今様源氏抄」その他がある。

廣瀬哲士

明治十六年二月、岡山縣津山町にて生れる。東京帝大佛文科卒業。佛蘭西に留學したことがある。「笑の研究」「西洋史論」等の著のほかに、多くの佛蘭西文學の紹介、翻譯などがある。慶應義塾大學教授。

廣津和郎

(現住) 東京市外下荻窪五四

明治二十四年十二月、東京市牛込區矢來町にて生れる。廣津柳浪氏の息。大正三年早大英文科卒業。曾て出版業「藝術社」を経営したことがある。小説集「神經病時代」「二人の不幸者」「明るみへ」「握手」「朝の影」「二人の女」評論集「作者の感想」「翻譯」女の一生「六號室」等のほかに、多くの小説、戯曲、評論、隨筆などがある。

福

福士幸次郎

明治二十二年十一月五日、弘前市本町にて生れる。青森中學校、開成中學校を何れも中途退學。國民英學會卒業。明治四十二年初めて詩壇に現はれ、後、文藝思想の批評をも發表するに至り、傳統主義地方主義を高唱して今日に至る。先づるまで郷里弘前にあつて地方主義社を主宰してゐた。詩集「太陽の子」「展望」論集「地方主義運動」などの著及び翻譯「イワシ」「インリツチの死」のほかに多くの詩作評論がある。

(現住) 東京市外世田ヶ谷町太子堂西山 四八五

福田正夫

明治二十六年三月、神奈川縣小田原町にて生れる。鎌倉師範學校卒業、東京高等師範學校中途退學。大正十年まで小學校教師をしてゐた。雑誌「民衆」を主宰してゐたことがある。長篇小説「未樂地」「二卷」詩劇集「哀樂兒」詩集「世界の魂」「船出の唄」長篇叙事詩「高原の處女」「戀の彷徨者」「嘆きの孔雀」「筑波の百合」「輝ける薔薇」「幻の麗人」「破れ胡蝶」「空翔ける美女」などの著がある。

(現住) 東京市外世田ヶ谷下北澤八〇九

福富菁兒

明治三十二年二月、新潟縣新發田町にて生れる。東京成城中學校を中途退學。故大杉榮に師事したことがある。短篇小説の作がある。

(現住) 東京市外代々木西原九四五

福永 湊

かつて挽歌の號を用ひた。明治十九年三月、福井市にて生れる。早大英文科卒業、二六新報、東京毎日新聞、名古屋新聞等を経て、永く萬朝報記者をしたことがある。散文詩集「習作」短篇集「夜の海」のほ

かに多くの翻譯がある。

(現住) 東京市外杉並町阿佐ヶ谷小山六五

布施延雄

明治二十五年二月二日、和歌山市にて生れる。早大文科中途退學。「カルメン」「楯形の肖像」を初め多くの翻譯がある。

(現住) 東京市外吉祥寺山谷二六九二、高橋方

藤井眞澄

明治二十二年二月五日、岡山縣御津郡馬屋下村にて生れる。早大政治經濟科出身。雑誌「黒煙」を主宰し、「演劇映畫講義録」を發刊し、續いて京都大將軍にあつて映畫事業に關係してゐた。戯曲集「妖怪時代」「最初の奇蹟」「新魔王」長篇戯曲「民本主義者」長篇小説「超人日蓮」同「精神醫學者」等の著作がある。イブセン會「演劇研究」同人。

(現住) 東京市外狛江村和泉一五七

藤澤桓夫

明治三十七年七月十二日、大阪市にて生れる。大阪府立今宮中學校卒業。大阪高等學校を経て、東京帝大英文科在學中。

短篇数種がある。舊「辻馬車」同人。「戦旗」同人。

藤澤清造

明治二十二年十月、石川縣七尾町にて生れる。小學校卒業後、専ら獨學。永く演藝「報」記者をしてゐたことがある。小説「根津權現裏」の著のほか、多くの小説、戯曲などがある。

(現住) 東京市外上荻窪六〇六

藤森淳三

明治三十年一月、三重縣阿山郡上野町にて生れる。中學校中途退學。雑誌「サンエス」中央美術「不同調」等の編輯をしてゐたことがある。「文壇は動く」の著のほか、小説、評論、童話などがある。

(現住) 東京市外阿佐ヶ谷小山八四

藤森成吉

明治二十五年八月二十八日、長野縣上諏訪町にて生れる。縣立諏訪中學校卒業。第一高等學校を経て、東京帝大獨文科卒業。一年間、第六高等學校講師をしてゐたことがある。短篇集「新しい地」「研究室」で「寂しき群」「煉獄」その頃の追憶

「東京」長篇若き日の悩み「煩惱」「妹の結婚」「舊先生」感想集「藝術を生む心」「大地の匂ひ」「狼」の悩み笑ふ戯曲「相戀記」「何が彼女をさうさせたか」、又「新選藤森成吉集」の著あり、ほかに小説、戯曲、評論がある。「戦旗」同人。

(現住) 東京市小石川區雜司ヶ谷一五

舟木重雄

明治十七年十二月五日、東京市芝區巴町にて生れる。麻布小學校、麻布中學校、立教中學校を経て、大正二年早大哲學科卒業。後、八年間、淺草女學校教師を勤めてゐた。舊「奇蹟」同人。「小泉講師の悔」作品と人々などの作がある。

(現住) 東京市外駒澤村上馬引澤五八九

舟木重信

明治二十六年七月、廣島縣江田島にて生れる。東京帝大獨文科卒業。二年ほど外遊して大正十三年歸朝。短篇集「樂園の外」のほか小説、研究翻譯などがある。早大講師。

(現住) 東京市外駒澤上馬引澤九一八

舟橋聖一

明治三十七年、東京にて生れる。東京帝

大國文科卒業。舊「朱門」同人である。戯曲「病疾者」「白い腕」その他の作がある。「心座」同人。

(現住) 東京市外下落合四三五

[ホ]

星野夢人

本名は仙吉。明治十年四月、東京牛込にて生れる。尾崎紅葉の門にあり、「俳諧」を刊行。後、「虎杖」「木太刀」を主宰して今日に及んでゐる。「俳句大觀」「百家俳句全集」「俳諧年表」「紅葉句帳」「紅葉書翰抄」「俳諧新潮」「木太刀俳句集」「紅葉遺文」等俳句に關する多くの編者がある。

(現住) 東京市牛込區築土町一

細田源吉

明治二十四年六月一日、川越市南町にて生れる。大正四年早大英文科卒業。雑誌「文藝行動」を主宰したことがある。多くの小説の作あり、長篇「罪に立つ」「ころさけぶ」「存在(中篇)」「短篇集」はたち前「未亡人」「死を待つ女」等は主なる著作である。「文藝叢報」同人。

(現住) 東京市外井荻村西荻窪六五五

細田民樹

明治二十五年一月二十七日、東京府南葛飾郡瑞穂村にて生れる。大正四年早大英文科卒業。「惱める破婚者」「母の零落」「凱旋」「極みなき破局」「妹の戀」「日の下」「執愛の日」「大地を發く」「或兵卒の記録」「逆生」「愛人」等の長短篇小説の著の外に多くの小説がある。「文藝叢報」同人。

(現住) 東京市外吉祥寺山谷二六五八

本莊可宗

明治二十六年十一月八日、東京にて生れる。少年期を北海道札幌にて送つた。同地の中學校卒業。第一高等學校を経て、東京帝大卒業。後、札幌農大に學んだ。日本大學教授だつたことがある。目下は深川労働學校に教鞭を執つてゐる。「痴愚和尚の遺書」「サニヂヤリズム」等の著のほか、戯曲、評論がある。

(現住) 東京市麻布區筈町一六八

本間久雄

明治十九年十月十一日、米澤市番匠町にて生れる。明治四十二年早大英文科卒業。永く「早稻田文學」編輯の任に當つてゐた。「文學概論」「近代文學の研究」最近

堀木克三

の思潮及文學「生活の藝術化」「エレンケイ思想の眞髓」「尾崎紅葉」「現代婦人問題」等の著のほか、「婦人と道徳」一來るべき時代のために「藝術の起源」等の翻譯及び多くの評論、研究などがある。早大講師。目下英國に留學中。

(留守宅) 東京小石川雜司ヶ谷町一四四

堀口大學

明治二十五年一月八日、東京本郷にて生れる。慶應義塾に學んだ。十餘年の海外生活を送つてゐた。多くの詩及び翻譯があり、詩集としては「砂の枕」「昨日の花」「月光とエロ」「水の面に書いて」「新しき小徑」堀口大學詩集「翻譯には小説「夜ひらく」「夜とさす」「三人女」「フィリップ短篇集」詩集「失はれた寶玉」「月下の一群」その他がある。詩雜誌「パンテオン」

(現住) 神奈川縣大磯町東小磯二二六、杉崎方

同人。

[マ]

前田晁

明治十二年一月十五日、山梨縣東山梨郡八幡村にて生れる。早大哲學及英文學科を卒業。博文館にあつて「文章世界」を編輯し、讀賣新聞記者だつたこともある。小説「曉霧」のほか翻譯「陷阱」「ゴックウル」「生の誘惑(モウパッサン)」「影繪(ツログロフ)」「チエホフ全集」「キイランD全集」その他がある。

(現住) 東京市外下荻窪三七〇

前田夕暮

本名は洋三。明治十六年七月、神奈川縣中郡大根村にて生れる。學歴といふほどのものを持たないといふ。明治四十四年から大正七年まで白日社の機關雜誌「詩歌」を發刊し、續いて雑誌「日光」の編輯同人となつてゐたが、先ごろ更に「詩歌」を復活主宰してゐる。詩歌の作多く、「前田夕暮集」「原生林」「收穫」「陰影」生くる日に「深林」詩文集「絲草心理」等の著作

がある。
(現住) 東京市外西大久保二二八

前田河 廣一郎

明治二十一年十一月十三日、仙臺市にて生れる。宮城縣立第一中學を中途退學、十九歳の時に渡米し三十三歳の時歸朝。一時、雑誌「中外」記者をしたことがある。多くの小説、戯曲、紹介などがあり、「三等船客」「赤い馬車」「大暴風雨時代」「脅威」「麵包」「新選前田河廣一郎集」等の著作のほかに「ジャングル」の翻譯がある。「文藝戦線」同人。
(現住) 東京市外中野西町三五八八

牧野 信一

明治二十九年十一月、神奈川県小田原町にて生れる。早大英文科卒業。舊「十三人」の同人だった。雑誌「少年」及び「隨筆」記者をしたことがある。「父を賣る子」その他多くの短篇小説の作がある。
(現住) 神奈川県小田原町新玉町二

正木 不如丘

本名は俊二。明治二十年二月、長野市にて生れる。東京帝大醫學部卒業。曾て澤篤子と號し、日本派の俳人であつた。大

正 富 汪 洋

正九年より歐米に留學二年、歸朝後引續き慶應義塾大學醫學部教授をしてゐた。「診療簿録白」「法醫學教室」「木賊の秋」「三十前」「三太郎」「學用患者の手記」「吹雪心中」等の著作のほかに、多くの小説、隨筆などがある。醫學博士。現在は長野縣富士見臺の高原療養所長。
(現住) 東京市外代々木南山谷二九九

正 宗 白 鳥

本名は由太郎。明治十四年四月十五日、岡山縣邑久郡本庄村に生れる。明治三十七年、東洋大學卒業。詩歌の作頗る多く、著作には歌集「夏雨」詩歌集「小鼓」詩集「豊麗な花」「戀愛小曲集」「汪洋新詩集」「月夜の海」「世界の民に」「一人の思想より」「母語集」「楽しい家庭」譯詩集「バイロン、シェリ二詩人詩集」評傳「詩聖ゲーテの戀愛」「ゲーテとシルレル」「天才詩人バイロン」その他がある。大正七年詩雜誌「新進詩人」を發刊主宰して今日に及んでゐる。
(現住) 東京市外代々木富ヶ谷一四五五

松 居 松 翁

文科卒業。讀賣新聞記者を七年間勤めたことがある。初期には専ら小説の作多く、近時は戯曲、評論をも多數發表してゐる。「紅塵」「何處へ」「泥人形」「二階の窓」「五月轍」「二家族」「落日」「深淵」「牛部屋の奥ひ」「烈日の下」その他の著作がある。昭和三年十一月外遊の途にのぼり目下米國に滞在中。

松 岡 讓

本名は玄真、かつて松葉と號した。明治三年一月十八日、仙臺市に生れる。國民英學會出身。報知新聞、萬朝報記者をした後、帝國劇場、三越呉服店等に關係したことがある。外遊二回、多くの戯曲の作その他がある。松竹合名社顧問。
(現住) 東京市外長崎町荒井一七二二

松 永 延 造

明治二十四年九月、新潟縣古志郡上組村にて生れる。第一高等學校を経て、東京帝大哲學科卒業。長篇小説「法城を護る人々」(三卷)、「田園の英雄」、「憂鬱なる愛人」その他がある。
(現住) 東京市外大井町元芝八二三

明治二十八年四月、横濱にて生れる。病弱のため正規の學業を履まず、早くより心理學哲學を修め、雑誌「心理研究」へ屢屢論文を發表したことがある。二十五歳の頃より文學及社會科學方面に轉じたこと云ふ。長篇小説「夢を喰ふ人」の著のほかに「職工と微笑」戯曲集「時頼と横笛」その他の作がある。

松 村 英 一

明治二十二年十二月三十日、東京芝區愛宕下町にて生れる。高等小學校を卒へた後、別に學歴はない。早くより窪田空穂氏に師事した。讀賣新聞記者をしたことがある。歌集「やまずげ」歌論集「短歌論抄」その他の著作がある。短歌雜誌「國民文學」編輯。
(現住) 東京市小石川區大塚坂下町八二

松 村 み ね 子

本名は片山廣子。明治十一年二月、埼玉縣にて生れる。「アイランド 戯曲全集」「ダンセニイ 戯曲選集」「シング 戯曲全集」「西の人氣男」を初め他に多くの翻譯がある。
(現住) 東京市外大森新井宿西沼六二七

松 本 泰

本名は泰三。明治二十年二月二十二日東京にて生れる。明治四十五年、慶應義塾大學卒業。大正二年より六年間倫敦に留學した。短篇小説集「天鵝絨」「倫敦記念帳」のほかに、多くの翻譯及び探偵小説などがある。
(現住) 東京市外中野町二四〇五

間 宮 茂 輔

明治三十二年二月二十日、東京四谷にて生れる。四谷第三小學校を卒業。慶應義塾普通部を経て同大學文科豫科に入ったが中途退學。株屋店員、鑛山事務員、新聞配達、郵便局事務員、燈臺守などをしながら各地に轉々、後、廣津和郎氏經營の出版業藝術社にゐたことがある。短篇「抜けて出る」「春を捜せる」「坂の上」などを初めとして小説、評論及び大衆文藝の作がある。「不同調」同人。
(現住) 東京市外碑衾町衾五九

眞 山 青 果

本名は彬。明治十一年九月、仙臺市にて生れる。第二高等學校中途退學。小説「南小泉村」戯曲集「平將門」「長英と玄村」等

のほかに、多くの小説、戯曲の著がある。松竹合名社客員。
(現住) 東京市小石川區第六天町四八



三 上 於 菟 吉

明治二十四年三月、埼玉縣北葛飾郡櫻井村にて生れる。粕壁中學校卒業。早大英文科に學んだ。小説の作頗る多く、長篇小説「愛慾の霧」「空しき青春」「暗い情熱」「妙齡」「青春の罪」「激流」「日輪」「炎の空」その他の著があり、ほかに短篇、戯曲、隨筆及び翻譯「歌人」「歡樂」「美しき寡婦」「森の處女」「モンテクリスト伯爵」などがある。
(現住) 東京市牛込區市ヶ谷左内町三一
(電話牛込一七八九)

三 木 露 風

本名は操。一時、羅風の號を用いたことがある。明治二十二年六月二十三日、兵庫縣揖保郡龍野町にて生れた。早大、慶應義塾に學んだ。曾て北海道のトラピスト修道院教師をした。多くの詩、童謡、隨筆などがあり、詩歌集「夏姫」詩集「廢

園「寂しき囀」白き手の獵人「露風集」
「幻の田園」「良心」「濠洲の幻影」「象徴詩集」「信仰の囀」「青き樹かげ」童謡集「眞珠島」唱歌集「小學生の歌」文集「露風詩話」「美學草案」「詩歌の道」「修道院雜筆」「修道院生活」の著がある。
(現住) 東京市外戸塚町上戸塚三七五

水木京太

本名は七尾嘉太郎、明治二十七年六月、秋田縣横手町にて生れる。縣立横手中學校、慶應義塾大學文學部卒業、南部修太郎氏の後を襲ひて、「三田文學」編輯をしたことがある。小説、戯曲、隨筆などがあり、戯曲「殉死」「嫉妬」などはいづれも上演されたことがある。慶應義塾文學部講師。
(現住) 東京市赤坂區水川町二七

水谷竹紫

本名は武。明治十五年十月、長崎市にて生れる。明治三十九年早大哲學科卒業。故島村抱月が藝術座を創立した際に理事となり、後、支配人となつた。やまと新聞、東京毎日新聞記者をした。また文部省社會教育調査會の委員をしたことがある。長篇小説「熱灰」戯曲「戰國の女」その

水守龜之助

明治十九年六月二十二日、兵庫縣赤穂郡若狹野村にて生れる。學歷といふものはない。「中央文學」「新潮」等の記者をしたことがある。また曾て「隨筆」を経営主宰してゐた。長篇「闇を歩く」「戀愛時代」短篇集「傷ける心」「歸れる父」隨筆集「候鳥時虫」の著のほか多くの小説、隨筆、及び戯曲などがある。
(現住) 東京市牛込區矢來町六六

水上瀧太郎

本名は阿部章藏。明治二十年十二月、東京にて生れる。慶應義塾大學理財科卒業。數年間歐洲に遊んだ。明治生命保險會社に勤務。小説の作多く「處女作」「その春の頃」「日曜」「心づくし」「海上日記」「旅情」「大空の下」「大阪」「大阪の宿」「葡萄酒感想集」「貝殻道放」等の著作のほか戯曲、隨筆などがある。近時は主として「三田文學」經營方面の維持に力を注いでゐる。
(現住) 東京市麹町區上六番町二九

三宅幾三郎

明治三十年十月十五日、兵庫縣加古郡加古川町にて生れる。第三高等學校を経て、東京帝大英文科卒業。後、浦和中學校、高知高等學校等に教鞭を執つたことがある。舊「行路」同人。「陰影」「五十年」「春夜」等の短篇小説がある。現に文化學院教師。
(現住) 東京市神田區河臺文化學院氣付

三宅周太郎

明治二十五年四月、兵庫縣加古郡加古川町にて生れる。京都同志社普通部を経て慶應義塾大學文科卒業。演劇に關する評論、研究等多く、「演劇往來」「演劇評話」の著がある。東京日日新聞社客員。
(現住) 東京市麹町區麹町一ノ一七、心法寺境内

三宅雪嶺

本名は雄二郎。萬延元年五月、金澤市にて生れる。東京帝大哲學科卒業。文學博士。永く「日本及日本人」を發行主宰してゐるが、後、「我觀」と改め今日に及んでゐる。「宇宙」「紙庫」等のほか極めて多くの著作がある。

(現住) 東京市外代々木初臺五五四八

三宅やす子

明治二十三年三月十五日、京都市富小路丸太にて生れる。お茶の水高等女學校卒業。「奔流」ある夫人の手記「其他、多くの小説、隨筆などがある。雑誌「ウィマン・カレント」を主宰してゐる。
(現住) 東京市外砦村成城學園前

宮島新三郎

明治二十五年一月、東京市神田區和泉町にて生れる。東京中學校を経て、大正四年早大英文科卒業。東京中學校の教師をしたことがある。「近代文明の先驅者」改造思想十六講(相田隆太郎氏と共著)等のほかに、翻譯「英米十六文豪集」「犧牲」(ダマンチオ)及び多くの評論、研究、紹介がある。先頃外遊を了つて歸朝、早大講師。
(現住) 東京市外西大久保町二〇

宮島資夫

本名は信泰。明治十九年、東京市四谷區傳馬町にて生れる。十三歳より小僧に出て、三十餘種の労働に従事したと云ふ。小説「坑夫」「恨みなき殺人」及び「第四階

級の文學」などの著のほか多くの小説評論がある。無政府主義文學雜誌「矛盾」同人。
(現住) 東京市牛込區若松町一三八

宮地嘉六

明治十七年六月、佐賀市にて生れる。尋常小學四年中途退學。仕立屋の小僧を振出しに、鐵工労働、軍隊生活、雜誌記者等の經歷を持つてゐる。小説「煤煙の臭ひ」「群像」「ある職工の手記」「放浪者富藏」「破婚まで」「累等の著のほか「小説作法講話」及び多くの小説、隨筆がある。
(現住) 東京市外瀧野川町御代之臺一三四六

〔ム〕

武川重太郎

明治三十三年十月九日、甲府にて生れる。アテネ・フランセ等に學んだ。小栗風葉久米正雄氏等に學ぶところ多いと云ふ。中央新聞記者をした。曾て「不同調」同人だつた。短篇小説「長い橋の上から」「考へる人」その他がある。
(現住) 東京市外下目黒三三五

武者小路 實篤

曾て無車の別名を用ひたことがある。明治十八年五月十二日、東京市麹町區元園町にて生れる。學習院初等科、中等科を経て、明治三十九年同高等科卒業。東京帝大文科社會學科に入學したが、翌四十年に退學した。同四十三年四月、志賀直哉木下利玄氏等と雑誌「白樺」を創刊。大正七年、新しき村の仕事を始めのために宮崎縣兒湯郡木城局内新しき村に赴いた。昭和二年三月より雑誌「大調和」を創刊主宰し、引續き今日に及んでゐる。明治四十一年に書いた小説「芳子」が處女作であり、同年出版した「荒野」が處女出版であるが、以後、今日までに發表した小説、戯曲、感想、隨筆、詩など頗る多い。
(現住) 東京市麹町區下二番町四〇

武藤直治

明治二十九年一月二十七日、横濱市初音町にて生れる。大正八年早大英文科卒業。評論がある。
(現住) 東京市小石川區丸山町一ノ五

村松梢風

明治二十二年九月二十一日、静岡縣周知

郡飯田村にて生れる。慶應義塾大學中途退學。小説、隨筆、大衆文藝等の著作が少くない。「梢風物語」「談話賣買業者」「上海」「支那漫談」その他がある。雑誌「麗人」主宰。
(現住) 東京市神田區村木町二

村松正俊

明治二十八年四月十日、東京にて生れる。第一高等學校、東京帝大文學部卒業、同大學院に學んだ。多くの評論のほかに翻譯「西洋哲學物語(ジュラント)」「文明の没落(シュヘンゲラア)その他がある。慶應義塾大學講師、目下外遊中。
(留守宅) 東京市麻布區富士見町四三

村山知義

明治三十四年一月十八日、東京市神田區末廣町にて生れる。開成中學校を経て、第一高等學校文科卒業、繪畫研究のため獨逸に留學一年、歸朝後、急進派の造形美術家團體「マゾオ」を起した。大正十四年さらに「三科」を起す一方小説、戯曲を發表するに至つた。また心座に據つて劇の方面にも仕事をしてゐる。「戦旗」同人。
(現住) 東京市外上落合一八六

室生犀星

本名は照道。魚眠洞の號がある。明治二十二年八月、金澤市千日町にて生れる。父に就いて經典を修めたほかに學歴はないと云ふ。多くの詩作、俳句、小説、隨筆などがあり、詩集「抒情小曲集」「愛の詩集(二卷)」「田舎の花」「星より來れる者」「亡春詩集」小説集「性に眼覺める頃」「結婚者の手記」「蒼白き巢窟」「美しき水河」「走馬燈」「高麗の花」等の著作がある。
(現住) 東京府下大森馬込谷中一〇七七

[七]

本山荻舟

本名は仲造。明治十四年三月二十七日、岡山縣兒島郡森戸町にて生れる。「名人崎人」「近世劍客傳」「宮本武藏」等の著のほかに、多くの大衆文藝ものがある。報知新聞記者。
(現住) 東京市下谷區上野花園町一八

百田宗治

明治二十六年一月、大阪にて生れる。小學校卒業の後、別に學歴はないと云ふ。

森

岩雄

書肆大鏡閣編輯部にゐたことがある。大正八年上京。詩集「静かなる時」「ぬかるみの街道」「百田宗治詩集」「新月」「青い翼」「吠える犬」等がある。目下詩雑誌「樵の木」主宰。
(現住) 東京市外中野桃園三三四二

森田草平

明治三十二年二月二十七日、横濱市にて生れる。成蹊學園専門部中途退學。映畫論集「第八藝術燈籠」のほかに映畫脚本數種等がある。現に中央映畫社、日本活動寫眞株式會社に關係してゐる。
(現住) 東京市外澁谷町羽澤九八

森本巖夫

明治三十年十月十七日、鳥取縣西伯郡播磨村にて生れる。小學校卒業後、一ヶ年

[ヤ]

矢口達

間裁判所に勤務、十六歳の時に上京し、店員、電工等をした後に、「文章俱樂部」記者をしたことがある。曾て「不同調」同人として同誌編輯に當り、後に雑誌「新文化」を主宰した。長篇小説「喘ぐ」を初め小説、評論などがある。
(現住) 東京市外碑文谷一八八

矢田挿雲

東京日日新聞社に勤務してゐる。歌集「貧乏と戀」小説集「子」を打つその他がある。
(現住) 東京市外杉並町阿佐ヶ谷松山二七七

安成二郎

明治二十二年九月二十日、茨城縣新治郡田餘村にて生れる。早大英文科卒業。多くの翻譯、紹介など、「アルネ」「コザック」「巖の處女」「十九世紀文藝主潮移民文學」「ワイルド全集」「モーパッサン全集」「近代英文學概論」「十大詩聖」「ドリアン・グレイの肖像」等の譯者がある。早大講師。
(現住) 東京市外井荻町上井草一四三二

柳澤健

明治二十二年三月二十一日、東京麻布區市兵衛町にて生れる。學習院を経て東京帝大文科哲學科を卒業。多くの評論、研究、紹介、翻譯など、「キリアム・ブレイク」「京都の理解」「朝鮮とその藝術」「神に就て」「木喰上人」等の著がある。京都同志社大學教授。
(現住) 京都市吉田神樂岡三

柳原燁子

明治二十二年一月、若松市にて生れる。大正四年東京帝大法科卒業。逓信省官吏、東京朝日新聞記者をし、外遊一年半。外務省に入り佛國大使館書記として、大正十三年春渡佛した。詩集「果樹園」「海港」「柳澤健詩集」翻譯「現代佛蘭西詩集」「印象派の畫家」評論集「現代の詩及び詩人」紀行集「歡喜と微笑の旅」「南歐遊記」等の著作のほかに、多くの詩、評論、隨筆などがある。
(現住) 在巴里日本大使館内

山崎斌

白蓮の號がある。明治十八年十月十五日、東京市麻布區櫻田町にて生れる。華族女學校(學習院女學部前稱)、英和女學校等に學んだ。宮崎龍介氏夫人。多くの詩歌のほかに小説、戯曲、隨筆などがある。歌集「踏繪」「幻の華」「白蓮自選歌集」「むらさきの梅」詩集「几帳のかけ」戯曲集「指蔓外道」小説「則天武后」「荆棘の實」等の著作がある。
(現住) 東京市外高田町三六二六

國民英學會に學んだ。二十三歳から各地を漂浪、二十六歳の時に朝鮮から歸り、雑誌「青年改造」を起したことがある。後雑誌「藝術解放」を主宰した。長篇「二年間」「結婚」「犧牲」中篇「女主人」「短篇集」靜かなる情熱「評論集」藤村の歩める道」の著作のほかに小説「隨筆」などがある。
(現住) 神奈川県鶴見区東寺尾町寺谷一五三五

山崎紫紅

本名は小三。明治八年三月三日、横濱市戸部町にて生れる。小學校卒業以外、別に學歷を持たない。横濱市會議員、横濱取引所理事をしたことがある。史劇「七の桔梗」「史劇十二曲」「史劇十種」論集「日蓮上人」「大日蓮」等の著作のほかに多くの戯曲がある。
(現住) 横濱市中區戸部町二ノ一八(電話横濱一〇六二)

山田邦子

本名は今井邦枝。明治二十六年五月三十一日、徳島市にて生れる。少女期を長野縣下諏訪町にて過した。歌集「光を暮れつ」「片々」隨筆集「委見日記」童話少女小説集「笛を吹く人」「白鳥」のほかに

多くの作歌、隨筆、評論などがある。
(現住) 東京市外千駄ヶ谷町六三八(電話四谷一〇九六)

山田清三郎

明治二十九年六月十三日、京都市にて生れる。夙より實社會に投じ、丁稚、給仕、配達、職工、自由労働などをした。後、雑誌「小説俱樂部」「新興文學」「文藝戦線」の編輯に當つた。短篇集「幽霊讀者」「小さい田舎者」の著のほかに、小説「評論」などがある。「戦旗」編輯。
(現住) 東京市外上落合七九一

山内義雄

明治二十七年三月、東京市牛込區市ヶ谷田町に生れる。鳴屋小學校、同中學校を経て、大正四年東京外國語學校佛語部卒業。京都帝大法學部に籍を置いて、専ら上田敏教授の指導を受けた。後、東京外國語學校講師に就任し、大正十年ポールクロードル氏駐日大使として來任、滯日中は同氏に親交した。佛蘭西詩選「狭き門」「アンドレ・ジイド」「影の彌撒」「アナートル・フランス」「モンテクリスト伯」「アレキサンドル・デュマ」「ル・シッド」「オラス」(コルネイユ)等の翻譯などが

ある。早大文學部講師。
(現住) 相州鎌倉郡深澤村苗田

山本有三

本名は勇造。明治二十年九月、栃木縣栃木町にて生れる。正則英語學校を経て、大正四年東京帝大獨文科卒業。戯曲の作多く、「山本有三戯曲集」「同志の人々」のほかに數種の戯曲集があり、また「生きとし生けるもの」「波」等の小説の作もある。早大講師。
(現住) 東京市外吉祥寺一八二〇(電話吉祥寺四六)

(工)

行友李風

明治十二年、備後國朝ノ津に生れる。商業學校卒業。大阪新報に入社、社會部記者、副部長を経て部長となる。後、松竹脚本部に入る。目下新國劇顧問。「北海熊」「月形半平太」等小説脚本の作が多い。
(現住) 大阪市西成區玉五本通一ノ五八

(三)

横瀬夜雨

本名は虎壽。明治十一年一月、茨城縣眞壁郡大實村にて生れる。尋常小學四年を卒へたのみで、後専ら獨學。詩集「花守」「花守日記」「二十八宿」「夜雨集」「死のよろこび」等のほかに折葉として「明治初年の世相」「天狗騒ぎ」の編者がある。
(現住) 茨城縣眞壁郡大實村

横光利一

明治三十一年三月、大分縣宇佐郡長峰村にて生れる。早大中途退學。「文藝春秋」「文藝時代」同人だつたことがある。多くの小説の作があり「日輪」「御身」及び「新選横光利一集」等の著作がある。
(現住) 東京市外杉並町阿佐ヶ谷二九〇

與謝野晶子

明治十一年十二月七日、堺市にて生れる。與謝野寛氏夫人。堺市立女學校卒業。明治三十三年以來、「新詩社」同人として歌壇に新運動を起した。大正三年に外遊したことがある。著作頗る多く、歌集、詩集、評論、感想、隨筆小説及び童話等に互り、「新譯源氏物語」「新譯榮華物語」「火の鳥」「激動の中を行く」「晶子歌話」

「人間禮拜」「人間往來」等その數五十餘種がある。文化學院學監。
(現住) 東京市外下荻窪三七一

與謝野寛

かつて鐵幹と號した。明治六年二月、京都岡崎に生れる。小學校卒業のほかに學歴はない。故森鷗外、故落合直文に師事した。新詩社を起し「明星」を主宰した。明治四十四年歐洲に遊び、大正三年歸朝。詩集「擲の葉」「鴉と雨」歌集「友の音譯詩集」「ラの花」等の著がある。
(現住) 東京市外下荻窪三七一

吉井勇

伯爵。明治十九年十月、東京麹町にて生れる。早大文科及び政治科中途退學。多くの詩歌のほかに小説及び戯曲などがあり、歌集「酒ほがひ」「片戀」「祇園歌集」「黒髪集」「東京紅燈集」「吉井勇集」戯曲集「午後三時」「夜」「俳諧亭句集」「偶體舞」等の著作がある。
(現住) 東京市麹町區平河町五ノ一四

吉植庄亮

明治十年四月三日、千葉縣印旛郡本埜村

にて生れる。第一高等學校を経て、大正五年東京帝大經濟科卒業。中央新聞社に關係したことがある。雑誌「日光」「橄欖」同人だつた。歌集「寂光」のほかに多くの作歌がある。
(現住) 千葉縣印旛郡本埜村

吉江喬松

かつて孤雁の號を用ひた。明治十三年九月、長野縣東筑摩郡鹽尻に生れる。早大文科卒業。大正五年より同九年まで早大留學生として佛蘭西にあつた。「純一生活」「愛の藝術」「近代文明と文藝」「高原」「旅より旅へ」「青空」「砂丘」「佛蘭西印象記」「翻譯水の上」「貧者の寶」等のほかに評論、小品、隨筆などがある。早大文學部教授。
(現住) 神奈川県鎌倉町長谷五八八

吉川英治

明治二十五年八月、横濱市尾上町にて生れる。學歷といふほどのものなく、約二十種の職業に従事した。「鳴門秘帖」その他數十種の大衆文藝の作及び童話川柳に關する雜筆がある。
(現住) 東京市外上落合五五三

吉田 絃二郎

明治十九年十一月、佐賀縣神埼郡西郷村にて生れる。早大英文科卒業。永く同大
學講師をしてゐた。小説、小品、戯曲、
感想、隨筆等頗る多く、主なる著書とし
ては「生の悲劇」「島の秋」「夢の上」「生
る日の限り」「心より心へ」「大地の涯」「光
落日」「無限」「小鳥の來る日」「草光る」「芭
蕉」「静かなる土」「木に凭りて」「雜草の
中」及び「新選吉田絃二郎集」などがある。
(現住) 東京市本郷區駒込林町二一六

吉屋 信子

明治二十九年一月、新潟市にて生れる。
栃木縣立高等女學校卒業。物語「屋根
裏の二處女」「地の果まで」「海の極みま
で」「空の彼方へ」「寧樂秘抄」その他小
説の著がある。昭和三年九月に、渡歐し
た。
(留守宅) 東京市外大森町不入斗九〇六

米川 正夫

明治二十四年十一月、岡山縣上房郡高梁
町にて生れる。東京外國語學校露語部卒
業。大正六年、大藏省から露都に派遣さ
れたことがある。多くの露西亞文學の翻譯

若山 喜志子

譯及び紹介があり。翻譯「カラマソフの
兄弟」「白痴」「戦争と平和」「神々の死」な
どはその主なるものである。陸軍大學教
授。
(現住) 東京市外中高井戸町三五

[7]

和氣 律次郎

明治二十一年、長野縣東筑摩郡廣丘村に
て生れる。故若山牧水未亡人。太田水穂
氏に師事し、後、故牧水氏に嫁した。多
くの短歌の作がある。
(現住) 沼津市市道町

和田 傳

明治二十三年一月、松山市にて生れる。
慶應義塾大學中途退學。大阪毎日新聞社
記者となり先ごろ外遊を試みた。「オスカ
ア・ワイルド」「エビキユラスの園」「畫像
カラ・アンヂェリエ」「マグダラのマリヤ」
「七つの燈火」等の翻譯のほか、小説、
紹介などがある。
(現住) 大阪市大阪毎日新聞社。

綿貫 六助

明治三十三年一月十七日、神奈川縣厚木
町在恩名にて生れる。厚木中學校を経て
大正十二年早大佛文科卒業。同十四年ま
で「早稻田文學」編輯に従事した。處女作
「山の奥へ」のほか短篇小説の作があ
り、ほかに「日本田園文學」「世界田園文
學」の編著がある。
(現住) 東京市外目白上り屋敷三五九一

明治十六年四月八日、群馬縣利根郡久呂
保村にて生れる。陸軍教導團を経て、明
治三十五年陸軍士官學校卒業。更に大正
三年早大英文科卒業。十五年間の軍隊生
活の體驗あり、日露戰役にも従軍した。
陸軍歩兵大尉である。後、中學校教師を
したことがあり、大正十年以來、作家生
活に入った。長篇小説「戦争」短篇集「靈
肉を凝めて」等の著のほか小説、讀み
ものなどの作がある。
(現住) 東京市外長崎町三八四六

了



定價壹圓五拾錢
郵送料拾貳錢

文藝年鑑
昭和四年一版

昭和四年一月二十四日印刷
昭和四年一月二十九日發行

編輯者 文藝家協會

發行者 佐藤 義亮

東京市牛込區矢來町

發行所 新潮社

電話牛込

振替東京

長
八八八八八
〇〇〇〇〇
九八七六五
番番番番番

東京市小石川區江西戶川町 富士印刷株式會社印刷

文藝家協會編纂・四六年刊集

毎年一ヶ年間の主要なる作品を輯めて一卷となす。文壇人を始め網羅し盡せる文藝家協會の嚴選にかゝる權威ある選集にして、昨年より新たに「詩と隨筆集」及び「大衆文學集」を創刊し、以て文壇全部の代表作を網羅することゝなつた。

日本小説集・日本戯曲集は、大正十四年版より全部取揃へあり。

日本小説集

昭和三年版

價壹圓七拾錢
郵送料拾錢

大衆文學集

昭和三年版

價壹圓五拾錢
郵送料拾錢

日本戯曲集

昭和三年版

價壹圓七拾錢
郵送料拾錢

詩と隨筆集

昭和三年版

價壹圓五拾錢
郵送料拾錢

各集の昭和四年版は三月刊行の豫定(新潮社出版)

14.4
989

終

